公益社団法人 埼玉県看護協会

さいたま Nursing

2020.7.31 NO.124

新型コロナウイルス感染症

Clap for Carers

10万人の子どもたちから「ありがとう」の拍手を届けます

6月15日、さいたま市の公立学校の児童生徒から医療従事者に向けて、一斉に「ありがとう」の拍手が送られました。

会員数	24,066名
保健師	417名
助産師	891名
看護師	22,152名
准看護師	606名
対前年度比	597名増

（R2.5.31現在）

Contents

会長あいさつ／令和２年度新体制 P2
✲表彰者・叙勲者紹介 …… P3
✲生きるを、ともに、つくる。
新型コロナウイルス感染症 …… P4～7
✲お知らせ …… P8

ごあいさつ

公益社団法人埼玉県看護協会 会長　**松田 久美子**

会員の皆さま、お元気でいらっしゃいますか。

新型コロナウイルス感染症の埼玉県患者数は2000名を超えました。お亡くなりになられた方々には心よりお悔やみ申し上げます。いまだ、治療薬･ワクチンのない中､「うつらない、うつさない」の覚悟を持ち、日々の業務に従事される皆さまに、心より敬意と感謝を申し上げます。

看護職をはじめとする医療従事者や生活を支えたエッセンシャルワーカーの活躍があって、事態は一旦の落ち着きをみせたものの、７月に入り感染者数は再拡大し油断できない状況が続いています。医療崩壊を招くことのないよう､「新しい生活様式」が定着する社会の実現が強く求められております。

さて、令和２年度通常総会は、感染対策として密閉・密集・密接を避けるために今回初めて、委任状による議決権行使を主とした縮小開催といたしました。例年と異なり、埼玉県知事をはじめとする来賓の方々、埼玉県看護協会長表彰の25名の皆さまにも出席をお控えいただきました。会員の皆さまにはご心配､ご迷惑をおかけしましたが､今は安全を優先したことをご理解いただきますようお願い申し上げます。

今年度の事業については理事会の承認のもと活動を始めておりますが、感染拡大防止を図るため７月までの研修は中止・延期を余儀なくされました。まず、８月にトピックス研修から再開し、今後、適時、ホームページで情報を提供してまいります。また、感染再拡大および季節型インフルエンザ等の流行を考慮して、11月７日「第14回埼玉医療安全大会」は中止､12月５日「第28回埼玉看護研究学会」は発表方法を誌上発表に変更させていただきます。発表を準備されていた方々、ご参加を予定いただいた方々には、心よりお詫び申し上げます。

蒸し暑い日が続きますが、会員の皆さまにはくれぐれもお体ご自愛いただき、暑い夏をマスクとともに乗り切ってまいりましょう。

令和２年度新体制

専務理事　澤登 智子

埼玉県保健所の保健師活動と看護大学での教育経験を経て新たに専務理事に就任しました。行政から委託された新型コロナウイルス感染症対策の一部事業をまず担うことになり、その中で看護の果たす役割の大きさ、頼もしさを改めて実感しています。県民の方々へより良い看護を提供するために地域との連携、多角的視点を大切に協会活動に臨みたいと思います。

常務理事　松本 恵子

担当：ナースセンター事業、協会立訪問看護ステーション　ほか

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い､多彩な職場で看護職が求められております。ナースセンターでは、eナースセンター（無料職業紹介）を活用し、多くの潜在看護職の皆さまに復帰していただきました。引き続き、看護職の確保と復職支援に努めてまいります。また、看護職が安全で安心して働けるよう職場環境改善に努めてまいります。

常務理事　星野 恵子

担当：埼玉高齢者介護研修センターの運営、医療安全対策　ほか

総会後より「埼玉高齢者介護研修センター」担当となり「看護学生実習指導者講習会」「医療安全管理者講習会」をはじめ多くの研修を企画しております。現在、各研修は中止しておりますが、今後、皆さまの安全・感染予防対策を十分に考慮したうえで、吹上という立地も考慮し、皆さまのニーズに応じた研修等、企画してまいります。

常務理事　各務 初恵

担当：認定看護管理者教育、災害看護対策事業　ほか

病院・福祉関係施設・訪問看護等地域で活躍する看護管理者の役割が発揮できるよう、認定看護管理者教育の充実を図っていきます。地震・集中豪雨と自然災害に加え、感染症に対する対策へと災害看護の視野は広がりを見せています。被災者への支援、第一線で対応にあたる看護職への負担軽減をはじめ災害看護に求められる力を注いでいきます。

常務理事　黒田 京子

担当：継続教育（一般研修）、埼玉看護研究学会　ほか

一般研修を中心に、教育の企画運営、看護研究学会の企画運営、広報委員会に関すること、そして認定看護師の資格取得や派遣事業等を担当いたします。今年は新型コロナウイルス感染症により、研修会の中止や開催日の変更など会員の皆さまにはご迷惑をおかけしております。withコロナとして求められる新しい生活様式同様に、新たな時代に即した研修、看護研究学会等の在り方を会員の皆さまとともに、作り上げていきたいと思っております。

令和2年度 役員一覧

会　　長	松田 久美子
副 会 長	石川 治美　　山中 富美代
専務理事	澤登 智子(新)
常務理事	松本 恵子　　星野 恵子　　各務 初恵　　黒田 京子(新)
職能理事	田邉 奈緒子(保)(新)　　谷島 春江(助)　　細谷 美穂(看Ⅰ)　　関口 敬子(看Ⅱ)
地区理事	星野 純子　　小川 裕美子　　板山 正美
准看護師理事	大家 圭子
監　　事	齋藤 栄子　　阿部 大輔(新)　　村木 京子(新)

❖ 春の叙勲・褒章 ❖

2020年春の叙勲・褒章で、本会前会長の**熊木孝子**様が瑞宝単光章を受章されましたことをご報告いたします。

❖ 会長表彰受賞者 ❖ (敬称略)

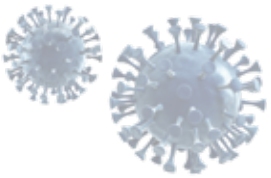
佐藤　　逸
(埼玉よりい病院)
赤沼　文子
(岡病院)
田中　勝枝
(小川赤十字病院)
島野　愛子
(埼玉医科大学病院)
塩井　厚子
(埼玉医科大学国際医療センター)
下地　成子
(関越病院)
臼井美登里
(埼玉医科大学総合医療センター)
近藤　菊江
(霞ヶ関南病院)
出井　小幸
(帯津三敬病院)
諸井　孝子
(入間川病院)
松木紀美江
(西埼玉中央病院)
田村　雅子
(埼玉県立精神医療センター)
民部田美保
(上尾中央総合病院)
柿沼久美子
(埼玉メディカルセンター)
後藤美恵子
(彩の国東大宮メディカルセンター)
小山内富士子
(大宮共立病院)
西田　博美
(尚和園アンシャンテ)
成川　睦美
(済生会川口総合病院)
篠原　久美
(川口市立医療センター)
高橋　恵子
(老人保健施設みぬま)
鮎ケ瀬光子
(済生会栗橋病院)
佐藤美香子
(東鷲宮病院)
白石　直美
(草加市立病院)
徳本　弘子
(埼玉県立大学)
上原由美子
(越谷市立病院)

〈令和２年３月31日現在〉

生きるを、ともに、つくる。

新型コロナウイルス感染症

COVID-19



日本国内で新型コロナウイルスの感染者が初めて確認されたことを厚労省が発表した1月16日から半年余りが経った。4月7日には緊急事態宣言が発令され、3密回避が呼びかけられた。とはいえ、私たち看護職には、在宅勤務、リモート勤務を行うことはできなかった。

それぞれに様々な思いを抱え、未知のウイルスとの闘いにどのように臨んできたかを聞いた。

私たちは、地域医療を考え、病院でコロナウイルス疑い患者を受け入れるための病床を確保することを決め、そのための態勢を整えました。また、対応にあたるスタッフが安心して働くことができるよう、宿泊場所の確保等、環境の準備も同時に行いました。そして、情報（状況）を共有することで、コロナウイルス疑い患者に対応するスタッフ、通常勤務にあたるスタッフにも安心して働いてもらっています。

心配していたのは、今年4月入職の1年目の看護師が例年のような新入職者研修もうけられないままに各部署に配属せざるを得ないことでした。**OJTの充実（工夫）を図りつつプリセプターによる精神面でのフォローに重きを置き、モチベーション維持に努めています。**

世間でテレワークが進んだ当初、様々なストレスがかかっていましたが、職場に出ることで、スタッフに会い、**直接コミュニケーションを取ることができる環境がありがたく感じるようになりました。**

当院は3月中旬より面会制限をしており、ご家族と会えない時間が長期になっています。

以前のように戻れないならば、新しい形でやるしかないと、**6月よりオンライン面会を始めました。**ご家族は全国どこでも複数名でも参加することができ、**久しぶりに会えたことを泣いたり笑ったりして喜んでいただいています。**端末を持っていないご家族には、院内の指定場所で院内端末を利用して病室と繋ぎます。今後、海外に住むご家族と繋ぐこともありそうです。

市中感染が広がる中で、今は職員に余裕がありませんが、今後、予約枠を増やしていくか検討中です。

買い物に出た先で、久しぶりに会ったママ友に後ずさりされてしまう場面がありました。「ああ、これが世間の反応か！」とも感じました。しかし、院内では**若い世代が中心になって“今できること”に積極的に取り組んでいる**こともあり、元気に頑張ることができています。

ゾーニング、各種ルールの策定等、今回のコロナウイルス感染者を受け入れるにあたり、院内全体で手探りしながら立ち向かってきました。6月現在、**第2波への体制が整いつつあります。**感染病棟のスタッフは緊張感をもって仕事にあたっていると思いますし、救急のスタッフは、いつ感染者が入ってくるかわからない状態で対応しています。そんな中でも、**前向きに明るく頑張っているスタッフの姿を見るととても頼もしく感じます。**入院している患者さんのご家族に対して「面会制限で会えない状況だから、せめて写真をお見せしたい」と楽しそうに準備しているスタッフの姿をみると、恵まれた環境にいるのだと改めて感じることができました。

INTERVIEW 01 熊谷保健所

コロナ対策の最前線に立つ保健師の動きと役割とは

地域の公衆衛生を担う保健師は、新型コロナウイルス感染症において、患者と医療をつなぐ重要な役割を果たしています。**熊谷保健所でコロナ対策の最前線に立たれている副所長 桜井文子氏、保健予防推進担当部長 小山ひとみ氏**に業務や心掛けていることについて伺いました。

―新型コロナウイルス感染症の対策における主な業務をお聞かせください

熊谷保健所は、熊谷市・深谷市・寄居町の2市一町が管轄エリアになります。

平時は、保健予防推進担当が感染症・母子・精神・難病等を担当する他、広域調整担当（本庄保健所、秩父保健所、鴻巣保健所含む）、地域保健推進担当、生活衛生薬事担当、食品監視担当それぞれが業務にあたっています。新型コロナウイルス感染症対策においては、保健予防推進担当に加えて、基本的な電話対応や検体回収等は職員全員の協力を得て対応しています。

▲桜井文子氏

主な業務は、各種相談窓口、陽性者への連絡、行動歴の聞き取り、感染者のご家族、職場など濃厚接触者へのアプローチをはじめとして、療養機関の調整、移動手段の算段、隔壁のある患者搬送車への同乗や、検体の回収・運搬など多岐にわたります。さらに関係各所との連携も加わります。都内では陽性患者の行方が知れなくなった、あるいは行動の聞き取りに応じてもらえないなどの報道がありますが、地域の特性なのか、丁寧に説明すると皆さんご協力してくださいます。

▲小山ひとみ氏

―感染者の発生届を受けてからはどのように動かれるのでしょうか

先日、21時頃に電話とFAXで発生届を受けました。このケースでは4名で3時間程度聞き取りを行いました。聞き取りしながらプレスリリースの概要作成、勤務先への連絡調整、終了後に記録・報告を行いました。翌日、療養機関の決定、感染者の搬送方法の調整をするまでが当座の業務となります。さらに引き続き濃厚接触者へのアプローチや、ご家族のフォロー等にあたります。

役付職員の場合は土日夜間の電話当番もあります。当番の際には、深夜に救急隊などから相談が入ることがあるので、状況に応じて動きます。

―市民からの相談の電話が鳴りやまなかったと報道がありました

電話相談は、1月の末から始まりました。記録を取り始めた1月27日～ 7月13日までの間に4895件うけています。一番多かったのは緊急事態宣言が発出される直前の4月6日に一日に148件の相談を受けました。4月6日～ 20日の開庁日は受話器を置いたらすぐに着信する状態で、一日平均112件受電しました。感染症担当だけで対応するには厳しい件数ですので、簡単なマニュアルを配布し、職員全員で対応していました。相談内容は、受診先についての相談（38%）、検査を受けたいという希望（37%）が多く寄せられました。事業所からの問い合わせも寄せられました。

―緊迫した状況下での電話相談では、ご苦労されたこともあるのではないでしょうか

そうですね。体調とは別にコロナ禍の様々なことに不安を持った方、あるいは検査が受けられないことに憤った方からのお電話も確かにありました。職員一同、丁寧な対応に努めていますが、どうしても発生してしまうのが相談者のニーズと提供できるサービスのキャパシティのずれです。そこを調整しようにも、調整しきれないことは出てきます。その“調整しきれない部分”をどのようにすくい上げていくのかについては、苦慮したところといえます。

―感染者に対してきめ細かく個別支援をされています

私たち保健師は、病気の治療をサポートするのと同時に、予防、蔓延防止をすることが仕事になります。感染者ご本人は、ご自身が感染したことで、ご家族、ご友人、職場などへの影響が大きいこともあり、たいていの場合大きな不安を抱えています。その不安に寄り添い、行動歴などを聞き取りする際にも、「ご自身と周りの方のために」という理解を得られるように進めます。感染者との間に信頼関係を築くことが、適切な専門医療機関へつなぐことと、地域の感染拡大防止策を遂行することを可能にしてくれます。今回の新型コロナウイルス対策に限ることではなく、私たちは、常よりメンタル面の寄り添いを重視した面接技術を身につけるよう心掛けてきました。

―最後に、会員の皆さんへのメッセージをお願いします

保健師の皆さんは、とにかく体に気をつけてくださいと伝えたいです。看護師の皆さんにおいては、本当に大変なお仕事への感謝を申し上げます。コロナに限らずですが、感染症は、特段リスクのある行動をとっているわけではなくとも入りこんでくることがあります。先が見えない毎日ですが、共に頑張ってまいりましょう。

保健師活動がんばろう!!

保健師職能委員会の皆さま

埼玉県看護協会では保健師職能委員の皆さまとともに、県内の保健師の皆様および保健師職能各団体と連携し保健師人材育成に貢献してまいります。

INTERVIEW 02 所沢明生病院

新型コロナウイルス感染症と闘う

新型コロナウイルス感染症の恐ろしさとはどこにあるのか、スタッフのメンタルケアについて、さらに秋から冬にむけての備えについて、院内感染を乗り越えたご経験を持つ**所沢明生病院の前看護部長である堀 千鶴子氏**よりお話を伺いました。

▲患者さんからいただいた感謝のメッセージ

所沢明生病院3月～6月

3月18日	疑い患者初診
23日	陽性確認
26日	職員の健康チェック開始
29日	コメディアン　志村けん氏逝去
4月2日	職員の新型コロナウイルス感染を認める
4日	保健所立ち入り、クラスター発生 外来・入院受け入れ中止
5日	ゾーニング開始
7日	緊急事態宣言が発令される
11日	感染認定看護師受け入れ、院内対策状況の確認
12日	病院長より職員へのメッセージを掲示
24日	厚生労働省のクラスター対策班受け入れ
5月	GHQ精神健康調査票によるストレスチェックを行う
6月	最後の陽性患者が陰性へ。職員の陽性者がないことを確認。２週経過後より外来部再開

所沢明生病院の３か月

院内感染が確認されてから、落ち着きを取り戻すまでの期間は目まぐるしく過ぎていきました。細かいことまで、毎日打ち合わせを重ねるのですが、朝決めたことが夕方には変更になることもたびたびでした。新型コロナウイルス感染症（以下、コロナウイルス）の何が恐ろしいって、症状が無いままで来院される方がいることです。ほかの症状での受診の方が、陽性者ではないという保証はない。そこが受け入れに慎重にならざるを得ない原因だと思います。例えば、熱がなくて来院された患者さんでもCTをとると“すりガラス状”になっている方も実際いらっしゃいました。

コロナウイルスが問題になった当初、当院のゾーニングが完璧だったとは言い難い状況でした。感染対策委員長の判断ひとつで患者さんを擬陽性にしてしまう、看護師も同じく危機にさらされることになります。重要になってくるのは、患者さんに日々寄り添っている看護師が患者さんをよく観察し、いち早く異変を察することができるよう「看護の目」をもって状況判断に参加することだと改めて感じました。

ゾーニングによるデメリット

一方、ゾーニングして人の動きを分断することの弊害もありました。人の動きを分断すると、情報まで分断され、最終的にスタッフ間に気持ちの分断ー温度差が生じてしまうことです。温度差は、不公平感や、不満の温床となってしまっていました。そこで、感染対策委員長が全職員に「GHQのチェックシート」によるストレスチェックを行ったところ、非常に高い数値が出ていました。

看護職員のストレス軽減を図るために、気持ちの吐き出しと見える化を行いました。

使用していない部屋に模造紙を貼り、縦を時間軸、横を出来事別に分け、付箋紙に無記名で「その時の気持ち」「思いや記憶」を記してもらいました。たくさんの生の声が出てきました。不安や不満、悔しかったことなど、ネガティブな気持ちも共有することで解消されていく様を見たように感じました。また、防護服を着用し、呼吸器の音だけがする閉鎖空間にいるのが辛く感じるというスタッフの声に応え、ラジオをいれるなど対策することもできました。

中には、「上司が休んでいません！」という言葉もあり、院長・感染対策委員長・看護部長が職員を思うように、職員からの気持ちもあり、一丸となって困難に立ち向かうことができました。

▲「感情の見える化」でストレス軽減を図った

自分を守る、人を守るという意識

6月11日現在、一旦の落ち着きを見せている今のうちにできることはいくつかあるかと思います。例えば、ガウンテクニック。コロナウイルス以前、学習ソフトの画面を見て練習していましたが、実際に使う段になると自分を、人を守る着脱ができていませんでした。看護管理者として、「勉強しておいてね」とは常から伝えていましたが、一歩踏み込んで知識としてのみではなく実際に使える技能として身につけておくように指導できていなかったことが私の反省点です。

いざ、その時になって立ち止まらずに動くためには、今のうちの綿密なシミュレーションにかかっているのではないでしょうか。スタッフを守り、患者さんに最善のケアを施すために。

埼玉県看護協会の取り組み

本会の新型コロナウイルス感染症対策について会員の皆さまへご報告いたします。コロナ禍の中、支援を必要とする病院や施設、そして患者さんへ向けて、以下のような取り組みを行いました。

1 支援物品の配布

企業や有志の皆さまより、防護服や、マスクなど数々のご支援をいただきました。

いただいた物品は、ホームページをとおして必要とする施設にお届けしました。今後も同様に、支援物品の配布等については本会ホームページにてご案内します。

2 ホテルでの宿泊療養に看護師を派遣

埼玉県が軽症者・無症状者が療養するために準備した宿泊施設への対応の一部を受諾し、4月15日より4ヶ所44名の看護師を派遣いたしました。ご協力いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。

ホテルで働いた看護師より

クリニックで働いていますが、コロナウイルスの感染拡大で患者さんは減っていました。そんな中で、療養施設での看護師を募集しているというお話を聞き、少しでもお役に立てるならと考えて面接を受けました。**自分がお役に立てる場があることがありがたかったです。**

宿泊療養先ホテルの一室

コラム

“最後の時間をどう過ごす”コロナ禍の看取り

新型コロナウイルスの感染が確認されてから半年が経過したが、ウイルスとの共存を図るための長期的な対策が求められている。医療現場や介護施設では、感染対策として面会制限を行っているが、その弊害は直接患者・家族に及んでいる。

私事で恐縮だが、4月末から九州の実家に帰省し、在宅で母を看取った。緊急事態宣言中であり、私が県外者（しかも埼玉）ということだけで、入所先では危篤状態でも直接の面会ができず、2週間経たないと通常面会や社会的サービスは使えない状況だった。最終的には母の「家に帰りたい」という一言で、在宅での看取りを決断した。帰宅してからの母は、家族の声掛けにうなずき、微笑み、住み慣れた家で静かに息を引き取った。社会サービスは使えず、救急搬送先での看取りも覚悟していたが、施設側の配慮で最後の訪問診療はしていただくことができ、悔いのない貴重な3日間を母と過ごすことができた。

先日NHKのニュースで「揺れる！“最後の時間をどう過ごす”コロナ禍のホスピス」特集が放映されていた。残されたかけがえのない時間をどう寄り添うのか考えさせられるテーマであった。「ガラス越しじゃ聞こえない」「画面越しじゃ温もりが伝わらない」特に残された時間の少ない患者・家族が穏やかな時間を過ごすには直接の触れ合いが必要である。

感染リスクを減らしながら一人一人の患者がどう過ごしたいのか、尊重されるべきは患者と家族の気持ちであり、希望を叶えることが私たち看護師の願いでもある。

新型コロナウイルス感染症拡大による学会・研修会等の開催について

第28回 埼玉県看護研究学会開催形式が変更となりました

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、本年度の看護研究学会は誌上での論文発表とすることになりました。集録の配付については、追って本会ホームページでご案内します。

演題募集期間　8月20日(木)まで

9月から研修をスタートします

緊急事態宣言を受けて開催を中止していた研修を、9月より再開します。参加人数の縮小や、オンライン研修の導入など感染防止対策を行い、安心してご利用いただけるよう最善の環境づくりに努めてまいります。開催する研修についての詳細は本会ホームページ（https://www.nurse-saitama.jp）にてご確認ください。

第14回 医療安全大会の開催を中止いたします

アンケートへのご協力ありがとうございます

123号のアンケートにたくさんの投稿をお寄せいただきました。みなさまからのお声の一部をご紹介します。

123号　〈特集〉看護の力、看護の未来へ

興味をひいた記事 第1位　**ありがとうメッセージ**

〈ご意見・ご感想〉

- 日々の業務で終わってしまう毎日が続いていますが、ありがとうメッセージを読んで心が温まり、初心にかえることができました。
- ありがとうメッセージに感動し、仕事への意欲がわいてきました！
- 看護をみつめなおすことができました。やっぱり看護っていいな。今こそ、看護の力を発揮できたらと思いました
- 感染症に翻弄される昨今ですが、改めていま、200年前のナイチンゲールからの言葉を思い返し、身に沁みました
- せわしない医療現場ですが、ナイチンゲールの言葉は、原点であり、初心であり、未来であることを思い出しました

会員対象 福利厚生のお知らせ

◆新たにダイワハウス工業と契約いたしました。
詳しくは、QRコードよりアクセスください

Daiwa House®

◆サンリオピューロランド夏のご招待企画は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のために、今年度は中止となりました。

編集後記　広報委員会

医療現場では、新型コロナウイルス感染拡大を最小限に留めるために予断を許さない日々が続いているかと思います。医療従事者の皆さまがこの困難に最前線で立ち向かっていることに深く感謝いたします。そして、新型コロナウイルスを自粛して終わるのを待つのではなく、コロナウイルスと共存しながら生活するというwithコロナという新しい生活様式に変わってきています。自分たちがどう共存すべきかを考える時がきています。

さいたま124号は、新型コロナウイルスと戦う医療現場での現状や共存を考える一助となることを願い発行いたしました。また、本号編集に際し、ご協力くださった皆さまに心から感謝申し上げます。

広報誌「さいたま」124号はいかがでしたか？**アンケートにお答えいただいた方の中から抽選でプレゼントが当たります。**奮ってご参加ください。

QUOカード500円分プレゼント!!

◆応募締切：**8/31(月)**まで
◆抽選で**30名様にクオカード**をプレゼント

▼アンケート内容

1) 興味を持った記事はありましたか？
2) 生活に制限がかかっている毎日ですが、今の生活で気分転換の方法があれば聞かせください（自由記述）
3) コロナウイルスに対応する中での職場での試みや、発見などがあったらお聞かせください（自由記述）
4) 本号へのご意見、ご感想をお聞かせください
5) プレゼントに応募されるかたは、お名前、郵便番号、住所をご入力ください

回答はこちら

VEGETABLE OIL INK　この印刷物は環境にやさしい「植物油インキ」を使用しています。
GREEN PRINTING JPM P-B10151

埼玉県看護協会会報　さいたまナーシング　NO.124
発行／公益社団法人埼玉県看護協会　〒331-0078　さいたま市西区西大宮3-3　TEL.048-624-3300　FAX.048-624-3331
編集／広報委員会　発行人／松田久美子　印刷／株式会社 アサヒコミュニケーションズ